

第2回東北大学サイエンスカフェ・スペシャル



鳥インフルエンザの流行と 新型インフルエンザ出現の可能性

世界的な大流行が心配されています鳥インフルエンザウイルスの人への感染問題、この市民にとって緊急の問題を「東北大学サイエンスカフェ」のスペシャル版として取り上げます。この問題の対策で世界的に活躍しています東北大学の押谷教授が講演の後、参加者との徹底的な議論を行います。

講演者：押谷 仁（東北大学医学系研究科、教授）

日時：2006年1月13日（金） 18:00-19:30

会場：東北大学医学部臨床大講堂

その場での参加自由！市民の方、中高生、大学生、企業の方、メディアの方の参加をお待ちしています。

東北大学サイエンスカフェ：せんだいメディアテークを会場に毎月1回のペースで開催されています。また緊急の話題は「サイエンスカフェ・スペシャル」として臨時に開催しています。詳しくはホームページをご覧ください。



<http://www.sci.tohoku.ac.jp/cafe/>

問い合わせ先：東北大学広報課 tel.022-217-4816

Science Café in Sendai

〈講演内容〉

アジアを中心として鳥インフルエンザが猛威をふるっていますが、鳥インフルエンザウイルスは単にニワトリなどの鳥を殺すだけでなく、ウイルスが変化して人類の間に新型インフルエンザの大流行を起こす可能性が指摘されています。20世紀には、少なくとも3回のそのような大流行があり、特に1918-19年に起こった「スペインかぜ」では世界中で4000-5000万人の人が死亡したと考えられています。どうしてそのような大流行が起きるのかそのメカニズムを説明するとともに、大流行を防ぐにはどうしたらいいのか、もしも大流行が起きたときにはどうしたらいいのか皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



◆講演者プロフィール◆

押谷教授は最近まで、世界保健機関（WHO）西太平洋地域（フィリピン・マニラ）の感染症対策の専門家として新型肺炎（SARS）や鳥インフルエンザなどの対策の最前線で働いていました。その活躍は、「NHKスペシャル」、「クローズアップ現代」や「ニュースウィーク（日本語版）」でも取り上げられています。また日本だけでなく世界中の新聞やテレビで、そのコメントが報道されています。